

## ハーフマラソンに出場して

先生は今月の中旬、静岡県磐田市で開催された「ジュビロ磐田ハーフマラソン大会」に出場しました。この大会は今回の出場が 3 回目になりました。3 回目ということもあり、コースを良く知っていたので、周りの様子を見ながら走る余裕がありました。その時に感じたこと・気づいたことを紹介します。



大会では、地元の中学生在が一生懸命働く場面がたくさん見られました。走るコースに 10 箇所ほど給水ポイントがあります。そこで水やスポーツドリンクを地元の中学生在たちが配っていました。マラソンは時間を計測するために、靴にタイムチップを針金で装着して走ります。ゴールした後チップを回収するため、靴から取り外さなければなりません。ものすごく疲れているので、取るのは一苦労ですが、中学生たちがゴールで待ち構えてペンチでそのチップを取る手伝いをしていました。走り終わったあとはペットボトルが配られ、出店もたくさんあるので、その場で昼食をとることができます。マラソンの後のご飯は本当に美味しく、ぺろっと食べてしまいました。すると、ゴミ袋を持った中学生がゴミを回収しに来ました。我々ランナーはそんな多くの中学生たちのおかげで気持ちよく走ることができました。休日なので、家でゆっくりしたい生徒もいたでしょう。しかし、どの生徒も笑顔で対応していました。手伝っていた生徒に「大変でしょう。」と声をかけると、「ランナーが無事にゴールできて、参加してよかったと思ってもらえるだけでやりがいを感じるので、むしろ楽しいです！」と答えてくれました。それを聞いて、感謝の気持ちがこみ上げてきました。



中学生たちの他にも、地域の方々や沿道から声援を送ってくれたり、高校生らがブラスバンドの演奏でランナーを盛り上げてくれたり、様々な形の応援がありました。また、マラソン大会が無事に終わるように、警備員や係員の方々も、準備や誘導をしてくださりました。多くの方々の協力があって、楽しくハーフマラソンを走ることができていることに気づかされました。

みなさんは自問清掃をどのように行っていますか。それぞれ違うと思いますが、あなたの清掃に感謝している人がいるかもしれませんね。

ランチルームでは、テーブルを一部取り替えましたが、臨機応変に対応して清掃しているみなさんに感謝しています。自問放送・黙想・移動の一連の流れには意味があります。みなさんならその意味を理解して清掃に取り組めるはず。自問清掃の意味を振り返り、落ち着いた雰囲気を取りかかれるといいですね。

(文責 岩井 諒介)